

# 全教栃木 教育新聞

## 人事異動は教職員の納得が大切！ 小中学校は内々示で校名まで伝えよ！

全栃木教職員組合は年度末の定期人事異動について、教職員の希望と納得を尊重して行うよう、県教委との交渉で要求しています。今年の交渉では、2人の教職員課長補佐が出席した10月の折衝で要求しました。組合の具体的な要求と県教委の回答を紹介します。

なお、人事異動について、教職員組合は個人（組合員）任せにしません。組合員の希望が実現できるよう、校長や市町及び県教委に対して要請を行います。長距離通勤、家族等の介護などで異動を希望されている方は、ぜひお気軽に全栃木教職員組合にご相談ください。相談にかかわることについての秘密は厳守します。

### 希望と納得の人事異動を

**組合**希望と納得の原則に基づく民主的な人事を推進すること。再任用を希望する教職員のすべてに再任用を保障するとともに、勤務校について同様の配慮を行うこと。再任用にあたっては管理職も同様の手続きとすること。

**県教委**人事異動については、本人の希望の有無にかかわらず、異動・配置換えがあることは理解してほしい。再任用の配置については、定年退職する教職員の雇用と年金の接続を図ることを踏まえて適正に行っている。

**組合**異動先も含めた異動情報を本人に適宜知らせて合意を得るようにすること。小中学校教職員に対して、内々示で転出先の校名を伝えること。

**県教委**人事異動は全県的な視野に立って行っているため、全員の希望どおりに行うことは不可能である。異動は発令によって行われることを理解してほしい。小中学校の校名の発表は内示で行う。

**組合**再任用者、臨時採用者の異動についても新聞発表を行うこと。

**県教委**正規採用教職員に比べて流動的なところがあり、新聞発表はできない。組合の意見は参考にしたい。（ここまでは用意された回答）

**組合**教職員課長だった大橋芳樹（現宇都宮東高校長）氏は、「異動は希望と納得が大切だ」と明確に述べていた。この発言と今回の回答は異なるのではないか。

**県教委**異動は発令によると言ったが、教職員から異動希望は聞いている。その希望を踏まえて異動は行うが、適正に配置するようにしている。

**組合**教職員の異動に内々示というワンクッションがある。この内々示という制度には、調整という先人の知恵があったと思う。しかし、発令によって行うというのでは、教職員は命令に従えばいいということになってしまう。

全栃木教職員組合（全教栃木） 全日本教職員組合（全教）に加盟しています。  
〒321-0138 宇都宮市兵庫塚3-10-30 TEL 028-653-0353 FAX 028-653-1579  
http://www.zenkyotcg.org E-mail info@zenkyotcg.org

**県教委**大橋元課長の発言は承知している。異動希望調書の一言一句を私たちは読み取っている。異動に関する希望については、異動調書配布前から教職員の意向を汲み取るよう年度初めの校長会で話をしている。異動先の学校の事情もあるので、希望に少しでも添えるような地域や校種への異動など配慮しているところである。

**組合**希望と納得を重視して人事異動を行っていくということを確認したい。小中学校については、納得するためにも内々示で校名まで伝えてほしい。

### 修学旅行などの振替は1泊につき半日を

**組合**宿泊行事などについては1泊につき半日程度の振替休日を認めること。

**県教委**特殊業務手当の支給で対応している。  
**組合**予備交渉で手当の話ではないことを説明したはず。千葉県は1日につき半日の割振を行っている。大橋元課長も1日に9時間の勤務時間を命じるという現行規定には、問題意識をもっていた。養護教諭は毎年参加していて、その負担は大きい。

**県教委**研究させてほしい。

## 教員採用試験学習会に25名が参加



全栃木教職員組合は2月6日、宇都宮市の清原工業団地管理センターを会場にして、2017年度の教員採用試験学習会を開催しました。

学習会では私たちが文書公開請求した県教委の教員採用実施要項なども用いて、作文や面接がどのように評価されているのか

具体的に説明しました。また、合格体験記は4月から正規採用になる2人の組合員が話しました。

参加者同士による作文をどう書くか話し合い、その後実際に書いて学習会は終了しました。参加者は25名でした。

この後の学習会は3月5日（土）に、全栃木教職員組合に会場を移して開催します。二次試験直前まで学習会を開催して、参加者の合格実現を最大限サポートします。なお、今後の学習会に参加するには組合加入が条件です。組合費も納入してもらいますが、学習会の参加も組合活動とみなし、会場までの交通費等は組合が負担します。また、青年部が企画する学習会などにも参加できます。加入は組合ホームページからでも行えます。

## 青年の学び場「輪・和・WAの会!!」

全栃木教職員組合に加入している青年組合員は、一昨年夏より教育や労働条件について、学び交流する「輪・和・WAの会!!」を開催しています。2015年度2回目の「輪・和・WAの会!!」は1月5日、全栃木教職員組合を会場にして開催されました。

この会では、千葉から青年教職員の佐藤さおりさん（市川市教職員組合書記長）、市川野亜さんの2人が、日頃の教育実践などを報告してくれました。

佐藤さんは「子どもは決して一人では育たない。そこには集団がなくてはならない」とし、子どもたち一人一人がつながり合って、認め合って、成長し合う集団づくりを意識して実践をしていきたいと話しました。参加した組合員の感想を紹介します。

◇今日の報告には「刺激を受けた」の一言です。今年度は本当に忙しくて、楽しい実践というものができませんでした。でも、4月にやった「億万長者ゲーム」や「くすだまわり」など、子どもは「楽しかった」と覚えているんです。やっぱり「楽しい」ことが一番ですね。教師自身も楽しんでい



けるよう、これからも学んでいきたいと思っています。（芳賀地区の小学校女性教員）

◇私が全教栃木に加入したきっかけが、1枚の葉書「採用試験学習会」の案内でした。全教のことを周囲の先生は知らず、もちろん自分もわからず、「ここは何をするところなんだろう？」という気持ちでしたが、今となっては自分が選んで組合員になり、いろいろな先生方とつながることができたことはとてもよかったと思います。また、職場では学べない学習会などにも参加することができて、少しずつスキルアップになっていると思います。

### こんな人事異動は許されません!

教職員の人事異動について、裁判で確立した異動の原則は以下の4つです。内々示で以下に抵触するような異動が告げられたら、組合に一刻も早くご相談下さい。

- ・当該教職員に著しく不利益を与えること。
- ・当該教職員個人、勤務する学校の計画的教育活動を過度に阻害すること。
- ・組合活動を抑制する、報復人事など非教育目的で行われること。
- ・条理上、事前に教職員の意見を聞き、その納得を求める手続きが必要な場合に、その手続きをふまえないこと。

（兼子仁『教育法学と教育裁判』や1986年11月10日の福岡高裁宮崎支部判決など）

### 教え子を再び戦場に送らない

30人学級を実現させよう 教職員評価の昇給等へのリンク反対 教員免許更新制を廃止させよう

こうした経験を自分の体で表現し、組合に入っていない先生に「どうして生き生きしているの?」と聞かれたら、「全教という組合があるから」と話していきたいと思いました。（塩谷南那須地区の小学校女性教員）

◇市川さんの「臨時も正規も関係ない」という言葉は、臨時採用の私にとってとても温かい言葉でした。私の立場で子どもたちのためにできることをやっていきたいと思いました。

「つながる」ということに関して、昨年は組合活動になかなか参加できませんでした。どんな理由があるにしても、すべての力を組合に注げなくても、少しずつでも何かのイベントに参加したり、全国の学習会に行ったりして、学び続けるということが大切だと思いました。「まずやってみる。できるペースで続ける」、この言葉が胸に染み込みました。ありがとうございました。

佐藤さんの「叱るより褒める」という言葉。私も同じ考えで、一度叱ったら、様子を見て変わったらすぐ褒めるようにしています。今後も続けていきたいです。「失敗はダイヤモンド」という言葉、私も教訓にします。（芳賀地区の小学校女性教員）

◇2人の先生方の日頃の実践、とても勉強になりました。私の学校は8日から新学期が始まりますが、今日聞いたことを少しでも授業に取り入れていけるようにがんばります。千葉県の臨時採用者の状況や学校の様子なども聞くことができてよかったです。（芳賀郡の中学校男性教員）

参加者の感想から、全教の取り組みが読み取れたと思います。こんな全栃木教職員組合でともに活動しましょう。

### 全教栃木に加入申し込みのメール



全日本教職員組合は第33回定期大会が2月13日と14日の2日間、東京の星陵会館で開催されました。この大会では組合員拡大のテーマで、20をこえる組織から報告がありました。全教栃木から谷秀夫書記長が、組合に届いたメールについて報告しました。そのメールを紹介します

はじめまして、□□〇〇子と申します。長い間東京で教員をし、その後地元の栃木に戻り教員をしています。東京では都教組（東京都教職員組合）でお世話になっていました。しかし、栃木に来て、恥ずかしながらわけのわからないまま栃教協に入ってしまった、全教のことを気にしつつも時間が過ぎてしまいました。

私は、ある民間研究団体に所属していません。その学習会で先日日体大の先生に会い、全教の組合に前任校時代の教え子である谷さんという方がいるという話を聞きました。これは、全教に加入するよい機会だと思ってメールをした次第です。

「わけのわからないまま」栃教協に入ったみなさん、入ってみてその活動の「わけ」を理解していますか。会員のための活動を実感していますか。

パワーハラスメント・長時間過密労働をなくそう